

【木曾川上流河川事務所が作成した教材の授業での活用例】



授業の導入部で、映像資料を使って自然災害について意識させる



岐阜県内の自然災害の年表や位置図から、地域・年代に関係なく起こっていることを学ぶ



ハザードマップや浸水深等身大パネルから、身近な地域でも浸水がおこりうることを学ぶ



「9.12豪雨災害」体験者の話(映像)を聞いて、わかったことや感じたことを発表



授業を通して、わかったことや自分で考えたことをワークシートに記入

～みんなの声～

- ・災害はいつでもどこでも、私たちの身近にも起こることがわかりました。
- ・もし水害が起こったときは、学校や他の建物が水に浸かり、私たちの身の周りも大変になることがわかりました。
- ・「9.12豪雨災害」体験者の話を聞いて、水が引いた後でも街が泥だらけになり、片付けや掃除が大変だったことがわかりました。
- ・災害が起こったら、私は怖くてパニックになり、大変なことになると思いました。

輪之内町立福東小学校5年1組の総合的な学習の時間において、木曾川上流河川事務所が作成した防災教育教材(学習指導・発問計画、板書計画、その他の教材(河川施設や行政の取組に関する資料、ワークシート)等)を用いた授業が実施されました。

- 日時：令和2年10月2日(金) 11:20~12:05 (45分)
- 場所：輪之内町立福東小学校
- 対象：5年1組(19名)
- 担当：福東小学校 鈴木先生
- 教材：発問計画(教員用)
：板書計画(教員用)
：提示資料
(河川施設や行政の取組に関する写真・名称・内容を結び付けるクイズや感想を記入するプリント)
：ワークシート
(河川施設の例、行政の誰が施設を作ったり、どのような取組をしているかを示す「行政カード」等)

- 【授業の内容(福東小学校5年1組の例)】
- テーマ 2. 災害を防ぐ行政の取り組み(公助について)※
- ①導入：河川施設の場所、航空写真、写真などから何のための施設か、など関心を持つ。
 - ②展開前段：国、県、町などの公の機関が、施設を作って水害に備えていること、それらを「ハード対策」ということを知る。
 - ③展開後段：国、県、町や水防団などが水害を防ぐ取り組みをしていること、それらを「ソフト対策」ということを知る。
 - ④終末：公助という言葉の紹介、ワークシートに学習を通して学んだこと・感想をまとめる。
- ※今回は4テーマある内の1つを授業で取り扱いました。

【木曾川上流河川事務所が提供した教材の例】

発問計画・学習教材

2. 災害を防ぐ行政の取組(公助について)

本時のねらい(目標)
水害からわたしたちの命や生活を守るために、国や県、国が様々な策(ハード・ソフト対策)をしていることを理解し、具体的な取組を知りたい。

※河川施設や行政の取組に関する写真・名称・内容を結び付けるクイズや感想を記入するプリント

発問計画

導入(5分)

1. 河川施設への関心を引き出す。
【質問】水害から命や生活を守るために、この施設では、どんな取組が、正まがされていでしょうか。
(資料1-3の場で提示する)
【質問】これは何のための施設でしょうか。
【質問】この施設は、どんな取組が、正まがされていでしょうか。

展開(15分)

【質問1】施設のある位置(河川、道路、身近な町や小学校との位置関係等)
【資料2】施設の一瞥を拡大した写真(あるいは遠方から見た写真)
【資料3】施設全体を見せる写真
【資料4】施設を見せるスライド

まとめ(5分)

【質問】施設を見せるスライド

ワークシート1 災害を防ぐ行政の施設

ワークシート2 取組写真(河川防犯カメラ、橋脚建設時、ハザードマップ、取組、取組など)

ワークシート3 施設写真と行政カードを結びつけるクイズ

ワークシート4 施設写真と行政カードを結びつけるクイズ

発問計画の例

ワークシート1 災害を防ぐ行政の施設

施設名

目的

橋脚

河川防犯カメラ

橋脚

防災センター

防災センター

防災センター

ワークシートの例

これは何のための施設でしょうか？ 資料3

答え

ヒント① 災害を防ぐための施設(ブロックなど)を構築しておくための施設です。
置設は地域のレクリエーションなどにも利用されています。

ブロック

防災センター

防災センター

防災センター

板書計画(2時間目「災害を防ぐ行政の取組(公助について)」)

今日の課題：水害に備えて、誰がどのような取組がされているだろうか。

水害を防ぐための施設

橋の取組は誰がやるか

水害からまちを守るために、市や県、国が様々な対策「公助」を行っている。

板書計画の例

それぞれの取り組みは誰が行っているでしょうか？ 資料7

自治体の施設

ハザードマップの作成

防災センター

防災センター

防災センター

提示資料の例

【木曾川上流河川事務所が作成した教材の授業での活用例】



授業の導入部で、提示資料を使って河川施設について関心をもたせた上で、課題を提示



河川施設の名称や、その施設に関する機関をクイズ形式で学ぶ



自分の考えた答えを発表



どのような人たちが、水害を防ぐためにどのような取り組みをしているかを学ぶ



授業を通して思ったことや考えたことをワークシートに記入する

～みんなの声～

- ・河川防災ステーションは、見たことはあるけど何の施設か知りませんでした。
- ・堤防には、国や県の人に関わっていることがわかりました。
- ・河川パトロールはいろいろな行政の人が関わっていることがわかりました。
- ・ハザードマップを作る人は、水防団だと思っていたけど、町役場の人を作るということがわかりました。

輪之内町立福東小学校5年1組の総合的な学習の時間において、木曾川上流河川事務所が作成した防災教育教材(学習指導・発問計画、板書計画、その他の教材(水防設備や備品に関する資料、水害に備える地域の取組(共助)に関する資料、ワークシート等))を用いた授業が実施されました。

- 日時：令和2年10月9日(金) 10:25~11:10 (45分)
- 場所：輪之内町立福東小学校
- 対象：5年1組(19名)
- 担当：福東小学校 鈴木先生
- 教材：発問計画(教員用)
：板書計画(教員用)
：提示資料
 (水防設備の例、水防団の活動の様子、水害に備えるための訓練の様子、水防団の思い等)
：ワークシート
 (地域での水害への備えや水防団の取組、活動への思いを写真と絵で結びつけ感想を記入するプリント)

- 【授業の内容(福東小学校5年1組の例)】
- テーマ 3. 災害を防ぐ地域の取り組み(共助について)※
- ①導入：水防設備や、備品の写真などから、水防設備についての関心を持つ。
 - ②展開：普段は仕事を持っている地域の大人が、水防団として水害に備えて訓練や施設点検をしていること、また水防団の思いを知る。
 - ③終末：地域の人が協力して地域を守る取り組みを「共助」という言葉として理解、ワークシートに学習を通して学んだこと・共助を実践する人々の思いについて感想をまとめる。
- ※今回は4テーマある内の1つを授業で取り扱いました。

【木曾川上流河川事務所が提供した教材の例】

発問計画・学習教材

3. 災害を防ぐ地域の取組(共助について)

本時のねらい(目標)
水害から自分たちの命は自分たちで守るという思いを持って公助の取組みと協力しながら地域の人々が活動していること、水防の内容や必要性について理解する。

※地域計画の……は、予想される授業の発言(児童に伝えたい発言)を示す。

流れ	発問計画	指導上のポイント	教材解説
導入(10分)	1. 水防設備への関心を引き出す。 (資料1を提示する)	身近な河川には、水害に備えるための施設があることに気づかせる。	【資料1】水防倉庫内観、倉庫内・格納している備品・水防工法用の道具の写真
	発問：このように倉庫が近くにあることを知っている人はいますか？このあたりにはありますか？		【資料2】写真の備品の用途、使用方法の資料
	発問：この「土のう」という道具は何に使うものでしょうか？		【資料3】使用方法の資料
	※発問：備品についての説明資料で答え合わせ		

発問計画が行われている。

発問計画の例

ワークシート「災害を防ぐ地域の取組み」

地域の人々が協力して、水害に備える取組み「共助」

ワークシートの例

水防倉庫

資料1

水害に備えて、土のうや防水シートなどが様々なものが備えてあります

水防倉庫の中の様子

水防倉庫の外様子

土のう

板書計画：3時間目「災害を防ぐ地域の取り組み(共助について)」

今日の課題：水害に備えて、地域の人々はどのような取組みをしているのだろうか。

水害を防ぐための設備(水防倉庫)

地域の人々はどんな思いを持って取組みをしているのだろうか？

まとめ
・水防団の人たちは、自分達の町を自分達で守りたいという思いをもって、訓練や水害のときの活動「共助」を行っている。

板書計画の例

水防倉庫の備品の活用

資料3

土のうを使った水防工法

水害が発生しそうな時には、土のうをたくさん使って、堤防から水があたりすぎるのを防ぎます。またシートの固定などにも利用します。

土のうを積み重ねてくみ上げて、ある程度水害を安全に抑えます(川の幅が広い場合は)

土のうの上にシートを敷き、土のうを積み重ねます

提示資料の例

【木曾川上流河川事務所が作成した教材の授業での活用例】



授業の導入部で、地元の水防倉庫の写真などを使って地域の設備について関心をもたせる



水防団の話の資料を使って、活動内容とその思いを学ぶ



水防団の活動や思いについて、自分の感じたことや思ったことを発表



地域の取り組み(共助)を通してわかったこと、感じたこと、考えたことをワークシートに記入



ワークシートにまとめた内容を発表する

～みんなの声～

- 自分たちの地域を共に助け合って、自分たちで守ることが「共助」だとわかりました。
- 災害が起きた時に、水防団の人は土嚢積みや救命ボートなどを準備することがわかりました。
- 水防団の人は命を懸けて、子どもや色々な人を守ろうとしていることがわかりました。
- 水防団の人たちは地域を守るために訓練をしていることがわかりました。

【木曾川上流河川事務所が作成した教材の授業での活用例】



授業の導入部で、映像資料を使ってマイ・タイムラインについて学ぶ



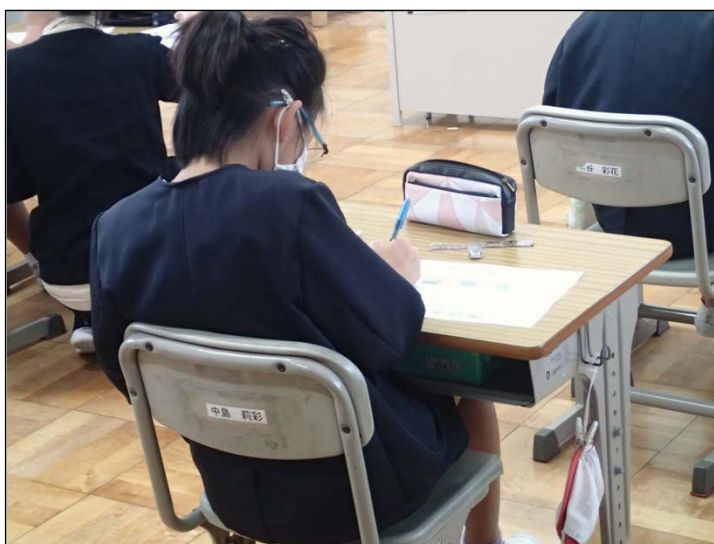
ハザードマップを使って、自分の家や学校の周りの危険な箇所について調べる



水害には予兆があり、「準備」をすることで命を守ることができることを伝える



台風が近づいているときに「いつ」「何をすればよいか」、考えたことを発表する



水害が近づいてきた際に、自分はどのように行動するかをマイ・タイムラインに記入

～みんなの声～

- ・ハザードマップを見て、水害が起こった時に自分の家や学校の周りがどれくらいの水深になるのかがわかりました。
- ・夜に水害が起きて、膝ぐらいいまで水が浸かるようになったら、家から避難するのは無理だと思いました。
- ・マイ・タイムラインを作ってみて、ペットを飼っている人は、ペットも一緒に避難することを考えないといけないことに気が付きました。